

令和4年2月1日発行
第528号



原町小だより「はらまち」

川口市立原町小学校
全校児童数423名

「なかよく」「かしこく」「たくましく」

HPアドレス <https://haramachi-kawaguchi.edumap.jp/>

コロナ禍の中で

校長 加田 明

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。保護者・地域の皆様にはお変わりはございませんでしょうか。

新型コロナウイルス感染症については感染力が強いといわれるオミクロン株により新規感染者数が急速に増加し、埼玉県は2月13日（日）まで「まん延防止等重点措置」が適用されました。本校において、私（校長）をはじめ複数の教職員が先月末に感染したことにつきまして、保護者・地域の皆様に多大なご心配やご迷惑をお掛けいたしました。今後も児童のケアを第一に努めると共に、感染拡大防止体制を強化して安心して生活できる学校環境づくりを遂行して参ります。

保護者の皆様におかれましては、お子様の発熱だけでなく、せき・鼻・のど痛などの症状がある場合、また家族に発熱、風邪症状の方がいらっしゃる場合は学校での感染拡大を防ぐためにも登校を控えていただきますようお願いいたします。

また、コロナ感染を理由とした差別、いじめ、誹謗中傷（陽性者や濃厚接触者を特定してSNS上で拡散するなど）が起きないように学校・家庭・地域との連携・協働を大切にしながら子供たちを見守ってまいりたいと思います。ご理解ご協力をお願いいたします。

さて、コロナ禍の生活の中では「以前の生活に戻りたい」と思ってひたすら我慢をして待つ生活が当たり前になった気がします。しかしひたすら何もしないで待っていても時間はどんどん過ぎ去っていくばかりです。子供たちにとっての「時間」は大人以上にとても貴重な財産です。

「現状維持は後退の始まり」とよく言われますが、このコロナについても「元の生活に戻りたい」という考えから一歩踏み出して、「今できることは何か？」「どこまでならできるだろう？」「今だからこぞできることはないだろうか？」という考え方が必要なのかもしれません。もちろん「健康が第一」というのは言うまでもありませんが、コロナ禍の中で子供たちの貴重な時間を有効に使うための新たな発想が求められています。

「WITH コロナ時代の新しい生活様式」を確立していくうえで必要な力が「創造力」です。人が幸福に生活するには「創造して生きる」ことが何よりも大切です。創造的に生きている人であれば、どんなに社会が混沌としようとも、「ここからまた何か生み出そう」と前向きに頑張ることができます。しかしそれは自分一人ではなかなか難しいこともあります。そこで必要なことは同じような思いをもっている仲間との協働です。仲間とともにアイデアを出し合って、仲間とともに力を合わせていくことが幸福な生活の追求につながります。学校・家庭・地域との連携・協働を大切にしながら子供たちの成長と学びを支援してまいりたいと思います。

1月25日（火）本校の研究発表会が開催されました。研究主題は「自ら学び、共に学び合う児童の育成」です。発表形式がすべてオンラインにはなりませんが、代表で3年2組（算数）、5年2組（社会）の「学び合い」の授業の様子を見ていただきました。一人ではなかなか解決できない「探究的な課題」に対して自分の考えを互いに伝え合い「協働的な学び」で課題を解決しようとする子供たちの姿が印象的でした。授業後は研究の概要、講演会、授業の分科会を行いました。川口市教育委員会の方々をはじめ多数の市内外の教育関係者の方にご参加いただき貴重なご意見ご感想をいただくことができました。これからの子供に必要な力の育成について改めて確認するよい機会になりました。新たなスタートに立った気持ちで子供たちの教育に生かしてまいりたいと思います。

